

正しく恐れる

校 長 細江 幸次

例年よりも1ヵ月近くも早い梅雨入りとなり、先週末はこの時期としては珍しい気象警報が発表され、臨時休校となりました。その前日にそうなることを予想し、3年生以上についてはPadを持ち帰り、リモート朝の会の実施、ロイロノートを活用した休業時の学習課題提示・回収を行いました。私はどうなることかと心配していましたが、どの学年においても子どもたちは自在に機器を扱って、情報のやり取りができたことに少なからずの驚きがありました。コロナ禍も相まって憂鬱な気分になるのは私だけではないと思いますが、その中でこのような姿を見ることができたのは、ある意味これまでの教育活動の成果でもあると思え、喜びを感じたところです。

5月25日現在、県下では22市町にまん延防止等重点措置が要請され、本市もその中に入っています。学校の教育活動が制限され、さらに緊張感が高まる中で取組を進めていくわけですが、「まず実施する方向で検討をスタートさせる」ことが大切であると考えています。その中のひとつとして、今年度は14日(月)よりプールでの体育の授業を開始します。後日、詳細についてはお知らせしますが、主に次のような対策を講じていきます。

＊連学年で体育の授業を行うので、一番密になりやすい更衣はプール更衣室を使用せず、2学年の教室に男女分かれて行います。また、更衣する位置(ロッカーや机)も指定するようにします。

＊泳ぐ方向を一方通行として、十分間隔を開け、飛沫がかからないように配慮します。自由泳はしません。

＊教師の声による指導は拡声器を用います。

＊水泳を見学する児童はプールサイド指定場所から見学します。

＊ゴーグルや帽子の貸出しはしません。…………等々

コロナ禍において、ある専門家の方が「正しく恐れる」という言葉を繰り返し伝えているコメントがありました。この「正しく恐れる」という言葉を調べてみると、10年前に起きた東日本大震災の頃に頻繁に使われていたことがわかりました。当時は原子力発電所崩壊に伴う放射線の危険性と一緒に使われていた言葉です。この言葉に込められた意味は実に深く、「恐れる」というのは客観的で科学的な姿勢が強く求められているということです。そして、根拠に乏しく必要以上に恐怖心をもつことは「こわがる」という言葉で表されるのだそうです(逆に根拠もなく物事の危険性を現実以下にとらえている人も実際多くいます)。この一年余り続く状況下で自分自身が正しい情報を取捨選択し、考え、判断した上で行動していかない限り、「正しく恐れる」ことはできないのだろうと考えます。

その意味においても学校の日々の取組の積み上げがいかに大切であることを再認識するとともに、保護者や地域の皆様と一緒に取組を進めていくことが重要になってきます。そして、「正しく恐れる」ことについて、次のようなコメントも見つけることができました。

…………『正しく恐れる』には、『恐れる必要はない』も姿勢のひとつとして含まれる



写真中央にドローンが飛んでいます